

農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー登録票（基本情報）

登録番号 258

ふりがな 氏名	やまもと まき 山本 麻希
所属先	所属先名称 長岡技術科学大学
	役職名 准教授
専門分野	総合対策 (捕獲手法) (侵入防止技術) (周辺環境整備) (地域合意形成) 野生動物管理 (生息調査含む) 処理 (焼却・減容化) 利活用 (食肉利用等) その他 (市街地出没、漁業被害対策)
対象鳥獣	シカ (イノシシ) (サル) (クマ (ツキノワグマ・ヒグマ)) (ハクビシン) (アライグマ) (アナグマ) (カラス) (カモ) (ヒヨドリ) (スズメ) (ムクドリ) その他鳥獣 (カワウ、サギ類、タヌキ)
対応可能地域	(全国) 北海道 東北 関東 北陸 東海 近畿 中国四国 九州 沖縄 その他※特定の都道府県、地域 (
免許及び資格	(狩猟免許) (銃：取得年 8年、 わな：取得年8年) (鳥獣保護管理) (鳥獣保護管理プランナー) (鳥獣管理士) (鳥獣管理士講座 講師) (その他) (DCC1)

※活動実績は次頁

活動実績	
活動期間	H26～R2 現在も継続中
地域	新潟県全域、茨城県全域
対策の種類	総合対策 捕獲手法 侵入防止技術 周辺環境整備 地域合意形成 野生動物管理（生息調査含む） 処理（焼却・減容化） 利活用（食肉利用等） その他（ ）
対象獣種	シカ イノシシ サル クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） ハクビシン アライグマ アナグマ カラス カモ ヒヨドリ スズメ ムクドリ その他鳥獣（ ）
活動の内容	新潟県と茨城県の鳥獣被害対策指導者養成のための県全体の研修を実施している。新潟県は近年、初級編（イノシシ、シカ研修、サル・クマ研修、小型獣類・鳥類研修、電気柵研修）合計4回、中級編（電気柵研修、集落環境診断研修、課題解決学習）合計3回の合計7回を行政や地域リーダー対象に実施、茨城県は初級編4回に加え、2地域で集落環境診断研修を実施している。また、新潟県ではこのほかに普及指導員研修、協力隊向け研修、捕獲技術者のための指導者養成上級編研修を実施している。行政担当者には必ず異動がある。そして仕事は引継ぎがほとんどなされないのが実情である。しかし、鳥獣被害対策は、継続が重要であり、高度な専門知識が要求される。そこで、新潟県、茨城県では毎年異動がある市町村や県などの鳥獣被害を担当する行政担当者向けに、農水省の総合対策事業の補助金を正しく使用することができる知識を身に付けてもらうため、全獣類、鳥獣対策の全体にまつわる内容の研修（実技を含む）のカリキュラムを作成し、研修を行っている。研修は、移動直後に参加する初任研に加え、経験ができてからうまくいかない部分を克服することを目的とした中級研、捕獲に特化したプロの捕獲技術者を作る上級編など近年は対象者ごとに細かにカリキュラムを組み替え実施を行っている。新潟県ではH26年よりこの研修を実施し、県内に述べ400人以上教え子が活躍している。また、茨城県ではR1年度より新潟で実施している研修を導入し、活動が始まった。新潟県はR2年度より県に鳥獣対策センターが設置され、主に、農林水産部農産園芸課の担当が種担当となっているが、私たち鳥獣対策を支援する民間団体と県がタッグを組んで、一緒に人材を育成するカリキュラムを作り、取り組むことで市町村の鳥獣被害実施レベルが高まり、近年は以前に比べ、サル被害が激減した。近年は、イノシシの個体数が増加しつつあるため、新潟県では捕獲者育成のためのプロジェクトに2年前から力を入れて取り組んでいる。茨城県もイノシシ被害が中心となっているが、霞ヶ浦中心に発生しているカモによるれんこん被害など地域性のある鳥獣種に細やかに対応したカリキュラムを作成している。

活動実績	
活動期間	H19～R2 継続中
地域	岩手県、秋田県、山形県、群馬県、東京都、新潟県、鳥取県は県の協議会を支援、環境省の広域協議会（関東、東北、中部近畿、中国四国、九州準備）、単発で青森県、福島県、千葉県、茨城県、山梨県、岐阜県、長野県、和歌山県、奈良県、大阪府、兵庫県、岡山県、高知県、広島県、山口県、島根県、宮崎県、大分県）で専門家派遣を受けた。
対策の種類	総合対策 捕獲手法 侵入防止技術 周辺環境整備 地域合意形成 野生動物管理（生息調査含む） 処理（焼却・減容化） 利活用（食肉利用等） その他（ ）
対象獣種	シカ イノシシ サル クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） ハクビシン アライグマ アナグマ カラス カモ ヒヨドリ スズメ ムクドリ その他鳥獣（カワウ）
活動の内容	額の算定も困難であり、内水面漁業は遊漁券の販売によって収入を得ていること、また、義務放流などがある点も他の鳥獣種とは被害対策の行い方がかなり異なっている。現在、環境省のカワウ検討委員として、毎年カワウの被害対策や個体数管理に関する問題点を年に1度専門家が集まって議論をするとともに、カワウの保護管理レポートを作成している。さらに、環境省が実施する上級者研修会や各広域協議会での講演、各県が主催するカワウ広域協議会における啓発、現地研修、合意形成のためのWSなどを行っている。また、県でカワウの第2種管理計画を策定する場合は有識者としてのアドバイスを求められることもある。カワウの対策においては、追い払いにドローンを用いた新規技術の開発が近年行われていることから、その技術の普及啓発や新しい技術開発等にも携わっている。

活動実績																					
活動期間	H19～R2 継続中																				
地域	北海道松前町、秋田県、山形県（米沢市、東根市）、茨城県（石岡市、かすみがうら市、鹿嶋市）、石川県（珠洲市、金沢市、七尾市、志賀町）、三重県、宮城県、群馬県、福島県、西会津町、長野県（泰阜村）、新潟県（村上市、新発田市、粟島浦村、新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町、三条市、長岡市、小千谷市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町、十日町市、上越市、妙高市、糸魚川市、柏崎市）、和歌山県、岡山県																				
対策の種類	<table border="1"> <tr> <td>総合対策</td> <td>捕獲手法</td> <td>侵入防止技術</td> <td>周辺環境整備</td> <td>地域合意形成</td> </tr> <tr> <td colspan="2">野生動物管理（生息調査含む）</td> <td colspan="3">処理（焼却・減容化）</td> </tr> <tr> <td colspan="5">利活用（食肉利用等）</td> </tr> <tr> <td colspan="5">その他（ ）</td> </tr> </table>	総合対策	捕獲手法	侵入防止技術	周辺環境整備	地域合意形成	野生動物管理（生息調査含む）		処理（焼却・減容化）			利活用（食肉利用等）					その他（ ）				
総合対策	捕獲手法	侵入防止技術	周辺環境整備	地域合意形成																	
野生動物管理（生息調査含む）		処理（焼却・減容化）																			
利活用（食肉利用等）																					
その他（ ）																					
対象獣種	<table border="1"> <tr> <td>シカ</td> <td>イノシシ</td> <td>サル</td> <td colspan="2">クマ（ツキノワグマ・ヒグマ）</td> </tr> <tr> <td>ハクビシン</td> <td>アライグマ</td> <td>アナグマ</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>カラス</td> <td>カモ</td> <td>ヒヨドリ</td> <td>スズメ</td> <td>ムクドリ</td> </tr> <tr> <td colspan="5">その他鳥獣（ オットセイ ）</td> </tr> </table>	シカ	イノシシ	サル	クマ（ツキノワグマ・ヒグマ）		ハクビシン	アライグマ	アナグマ			カラス	カモ	ヒヨドリ	スズメ	ムクドリ	その他鳥獣（ オットセイ ）				
シカ	イノシシ	サル	クマ（ツキノワグマ・ヒグマ）																		
ハクビシン	アライグマ	アナグマ																			
カラス	カモ	ヒヨドリ	スズメ	ムクドリ																	
その他鳥獣（ オットセイ ）																					
活動の内容	県、もしくは、市町村から鳥獣被害対策に関する講演、集落環境診断、電気柵の設置、市街地出没へのアドバイス、地域の合意形成WS、個体数管理のための捕獲指導、捕獲データの分析、サルの行動データ分析、協議会における有識者委員としてのアドバイスやコンサルティング、被害防止計画の第三者評価の記入などの仕事を行っている。実施回数は近年おおよそ1年に40～50回ほどで地域は覚えていた限りでは上の地域に行ったことがある。上記の活動は、カワウ以外の野生鳥獣における指導で伺った地域である。																				